



台湾における危機言語と言語政策の現状

講演者：湯 愛玉先生（台湾、国立東華大学）

実験研究が紐解く「身体化された認知」

講演者：里 麻奈美先生（沖縄国際大学）



日時：2024年11月29日（金）

15:40-15:45：開会挨拶
15:45-16:45：湯先生講演
16:45-17:00：休憩
17:00-18:00：里先生講演

場所：東北大学川内キャンパス
文学研究科棟311教室
参加費：不要
使用言語：英語（質疑応答は日英）
事前登録：不要

東北大学言語学講演会

プログラム

場所：東北大学文学研究科棟311教室（仮）

2024年11月29日（金）

15:40-15:45 開会挨拶

15:45-16:45 湯 愛玉 国立東華大学（台湾）准教授



台湾における危機言語と言語政策の現状

20年にわたり先住民族言語の復興を目的とした政策が実施されているにもかかわらず、台湾に残る先住民族言語は様々な程度で衰退しており、潜在的な消滅の危機に直面している。本発表の目的は、台湾における(1)様々な危機言語の現状を紹介すること、(2) 現行の言語政策とその関連諸問題を提示すること、(3) 先住民族言語政策の効果を評価すること、(4) 台湾の多言語状況における先住民族言語政策の改善に向けた提言を行うことである。

政策と成果の関係を考察するフレームワークを用いて、これまで実施された政策が言語使用のための三つの条件、すなわち能力・機会・欲求を満たすことにつながるかどうかを検討する。その結果、現在の先住民族言語政策は、言語使用のための十分な機会を提供しているものの、先住民の人々はまだその機会を活用するための十分な言語スキルを持っていないことが示された。最後に、先住民族言語が次世代に継承されるために必要な教育政策における5つの具体的な提言を行う。

休憩 16:45-17:00

17:00-18:00 里 麻奈美 沖縄国際大学教授

実験研究が紐解く「身体化された認知」

「身体化された認知」という理論は、言語理解や認知プロセスは個人の身体的行為や経験に基盤化されていると主張している。知識が身体に根ざしているとは、一体どういうことだろうか？本発表では、身体運動や感情が無意識に言語に与える影響に焦点をあてながら、心理言語学の研究対象としてあまり取り上げられてこなかったトンガ語（VSO語順）ならびに台湾の危機言語であるタロコ語（VOS語順）に関する現地での実験研究を紹介する。さらに、身体化認知理論の理解を深める上での動詞先行型言語の重要性についても考察する。